

海外リサーチ・クラークシップ成果報告①：ジャーナルに掲載されました

海外リサーチ・クラークシップの参加学生の多くが、プログラム参加後も学内の研究室に所属し、研究活動に取り組んでいます。そんな学生が貢献・活躍した研究活動が、共著論文として発表されました。ご指導を賜りました関係者の皆様に心より感謝申し上げます。研究活動に興味がある学生の皆さん、研究室に所属している先輩に気軽に相談してみてください。そこには研究室でしか得られない出会いと学びがあります。

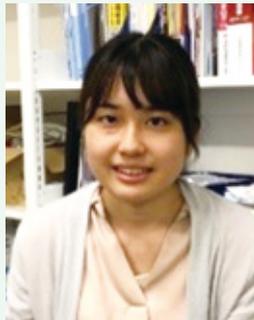
■ Nature Communications ■ C9orf72-derived arginine-rich poly-dipeptides impede phase modifiers

DOI:10.1038/s41467-021-25560-0 2021年9月6日 オンライン掲載／長田理瑚(医学科6年)、森川成孝(医学科5年)

ジャーナルに掲載されて

医学科6年 長田 理瑚

「神経変性疾患における相分離制御破綻の機序解明」に関する論文の共著者としてご掲載いただきました。本プロジェクトに参加させていただいたことで、様々な最新の実験手法について大変勉強になりました。実験では失敗することもありましたが、その度に先生方とディスカッションを重ね、一つ一つ乗り越えていくということを学生時代に経験できたことは大きな財産となりました。ご指導いただいた、七浦仁紀先生、森英一朗先生始め共著者の先生方にこの場をお借りし厚く御礼申し上げます。



医学科5年 森川 成孝

「Nature Communications」誌での論文発表に際し、共著者としていただきました。実験には様々な困難が伴いましたが、自分が出したデータがfigureとして掲載された時の喜びは何物にも代えがたいと感じました。研究は長く時間をかけて結果を積み上げ、仮説を検証してゆきます。この一連の流れを学生の間に学ぶことができるのは非常に貴重な経験であると思います。ご指導いただいた共著者の先生方に、この場をお借りし厚く御礼申し上げます。この経験を活かし、今後も精進してまいりたいと思います。



海外リサーチ・クラークシップ成果報告②：西日本医学生学術フォーラム2021を開催しました

医学科5年 森川 成孝

11月13日に西日本医学生学術フォーラム2021を本学主催で開催いたしました。新型コロナ禍の影響でオンライン開催となりましたが8大学11演題の口演発表が行われ、様々な分野の発表や学生同士での活発な議論が交わされました。また本学OBの水野友貴先生(2020年卒)と中原一貴先生(2019年卒)にキャリアに関して講演いただき、自身の将来について考えを深める良い機会にもなりました。ブレイクアウトルームを利用した座談会セッションでは、所属大学・学年を超えた交流が行われたと感じております。開催にあたり尽力いただいた森英一朗先生(未来基礎医学)をはじめとする先生方、ともに学生代表を務めてくれた5年生4名、そして参加していただいた皆様にこの場をお借りして深く御礼申し上げます。



発表・運営に携わった学生たち

リサーチ・クラークシップ：医学科2年生を対象とした研究室配属プログラムで、早期に国内外の研究室に参加することにより、研究マインドを育てることを目的としています。